

「人」と「場所」をつなげたい

NPO 法人 D-YCAP 代表

伝統あるハマ展に NPO 法人 D-YCAP(ダイバーシティ横浜市民アートプランナー)が D-YCAP 賞として、後援をお出しすることができ、大変光栄に存じます。また、これまで多くの作家を輩出し、今なお横浜の市民文化を牽引されている横浜美術協会に心より尊敬申し上げます。D-YCAP 賞は部門を横断して将来を嘱望される若手にお渡しいただきたいということで、ご審査をお願いしております。これから D-YCAP として授賞者の制作活動を応援していく所存です。奨学という意味も込めてお渡しさせていただいています。若手というと年齢的なことを思われるかもしれませんが、思い立って筆をとった時が始まりです。制作の経験もその対象としております。

さて、私たちの前身は、2011 年の東日本大震災で、被災施設として閉館・移転が決まった関内駅前の横浜市民ギャラリーに務めていた有志で立ち上げた任意団体 YCAP(横浜市民アートプランナー)です。この任意団体は、突然決まった閉館と先の見えない移転に、利用団体の困惑した状況を目の当たりにし、何とか今までに近い形で、活動を続けられるように応援しようという目的で閉館を機に退職したスタッフで作りました。それから数年が経ち、学校や社会に多様な価値観が求められ、今まで以上に芸術・文化の働きが重要になりました。「多様な生き方」を芸術・文化で支援するという目的を新たに加え、「ダイバーシティ」(多様性)という名称にしました。

私とハマ展との出会いは第 60 回記念展からです。そこから横浜市民ギャラリーのスタッフとして、お手伝いをさせていただきました。記憶に残る作品はたくさんありました。その中でも特に思い出深いのは平成22年第66回展の協会大賞受賞作品、大塚習平氏の天を仰ぐような大きな立像彫刻です。普段彫刻は天井の高い「中 2 階」にバトン照明で展示します。しかし、この作品は、協会賞なので 1 階正面に展示されました。1 階正面は天井の低い展示室です。低い天井からの照明では、天を仰ぐ立像の顔にライトが必要以上に当たってしまいます。もし、これが人間だったらあまりのまぶしさに目をつむり、顔を背けるに違いない……。そう思うだけで、「作品を生かせる」照明と展示に最後まで悩みました。公募展の受賞作という制作者や審査員の思いを生かせる会場と展示技術。私は今でもその思いに変わりはなく、作品を大切にそして多くの人にご覧いただける仕組みを考えていきたいと思っています。

今、活動の基本は「人」と「場所」とつなげたい……。これからも、横浜美術協会の益々の発展を祈っております。

(ハマ展会報 No.13)